

# 京都大学人文科学研究所共同研究 最終報告書

## 1. 研究課題

生きる営みと環境問題

Living Activities and Environmental Issues

## 2. 研究代表者氏名

岩城 卓二

IWAKI, Takuji

## 3. 研究期間

2023 年 4 月-2025 年 3 月

## 4. 研究目的

「環境問題の社会史的研究」班(2020・4・1～2023・3・31)は、日本の近世から現代までの環境問題について、とくに環境問題に関わる社会運動を中心に、運動が起こった現場の社会構造に注目しながら被害の現場に生きる住民の立場から環境問題とは何かを考えることを目的とした。本研究班は、その成果と課題をふまえ、山野河海におけるヒトの生きる営みを実証的に明らかにし、17 世紀以来のヒトの生きる営みが、いつ、何を契機に変容し、どのような要因によって環境問題として可視化されるのか、あるいは可視化されないのかについて明らかにしていく。日本列島に限らず世界の諸地域を対象とするが、「環境先進国」という前近代日本評価の再検討と戦後の高度経済成長の位置付け、人びとの環境認識、都市と農村の関係性、環境問題につながる山野河海を開発する側の論理など「生きる営み」に重点を置いて実証的に明らかにし、環境問題とは何かについて考えていきたい。

The "Social Historical Study of Environmental Issues" group (April 1, 2020 - March 31, 2023) examined environmental issues in Japan from the early modern period to the present day, focusing in particular on social environmental movements, taking into account the social structure of the actual sites where the movements evolved, and considering what the environmental issues are from the perspective of the residents living in the affected areas. Based on the results and the questions raised, this research group will empirically clarify human activities in the mountains, fields, rivers, and oceans, and identify when and at what point human activities have changed since the 17th century, and what factors make them visible or invisible as environmental issues. Our research is not limited to the Japanese archipelago but covers various regions of the world. We would like to reexamine Japan's pre-modern reputation as an "environmentally advanced country," the positioning of its rapid postwar economic growth, people's perception of the environment, the relationship between

urban / rural areas, and the logic of those who develop the mountains, fields, rivers, and oceans that lead to environmental problems, with an emphasis on "living activities," to empirically clarify what environmental issues are.

## 5. 研究成果の概要

本研究班は、2020～2022 年度 B 班「環境問題の社会史的研究」の問題意識を継承し、大きな社会問題化した環境問題だけでなく、社会問題化しなかった、あるいは環境に害を与える行為とは認識されなかったが人の生きる営みが環境に大きな負荷を掛けていた事象にも注目しながら、班員による研究報告を積み重ねた。その成果は、大きくは以下の 3 点に整理できる。

①前近代と近代以降の環境問題の接続

②近代以降、とりわけ高度経済成長期の環境問題の特質

③社会問題化後を考える

①は「現在」の観察に力点を置く社会学・文化人類学と、「現在」の事象を歴史的文脈の中で理解する歴史学者の対話につながった。②は近代以降、とくに人々の生活スタイルが大きく変容した高度経済成長期に焦点をあてた研究報告を積み重ねた結果、日本・世界にとって、一九五〇～七〇年代の高度経済成長がもった歴史的意味を問うことになった。③は「環境問題の社会史的研究」班では不十分であった、社会問題化後も、その現場で生きる営みを続ける人々・社会に焦点を当てて、被害・加害の記憶の継承、地域社会の再生について研究した。あわせて、現在の環境問題の深刻さをふまえた、未来社会のあり方も検討した。

## 6. 共同研究会に関連した主な公表実績

なし

## 7. 研究成果公表計画および今後の展開等

2025 年度前半に、成果報告論文集執筆者による執筆内容の提示、それをふまえた班長との調整を行い、その後、年度末までに原稿を提出。2026 年度の刊行助成を利用して、成果報告論文集を刊行する。